

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

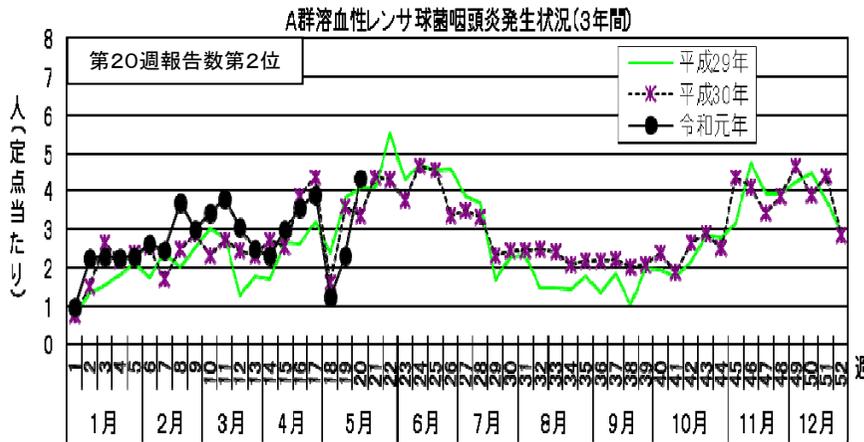
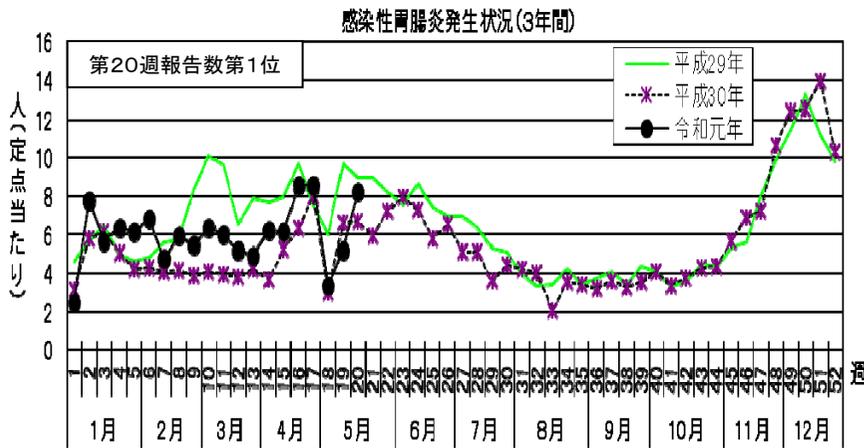
令和元年5月13日（月）～令和元年5月19日（日）〔令和元年第20週〕の感染症発生状況

第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.22人と前週（5.16人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.32人と前週（2.32人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は1.49人と前週（0.74人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



大型連休後の感染症発生状況

大型連休から2週間が経過し、川崎市では現在、インフルエンザや感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数が大幅に増加しています。特に小児での報告が多いため、集団施設での予防対策が重要です。

なお、インフルエンザについては、令和元年第20週（5月13日～5月19日）の定点当たり報告数が1.49人となり、流行開始の目安である定点当たり1.00人を超えたため、今シーズン3度目の流行期となりました。

